

2001年度からついに

政令市で

全国市民オンブズマン連絡会議調査(2002年度)

現市政

接待費ゼロ

情報公開度 1位

「清潔・公正・開かれた市政」へ着実に変化

4年前までの市政

「官官接待は必要」と公言

生活保護者1ヵ月の食費分3万5千円をひとりが一晩で飲み食い

平岡市政時代は、市民の税金を使って国・県・市の役人どうしが飲み食いする「官官接待」が横行していました。「生活保護者の1ヵ月の食費分3万5000円をひとり一晩で飲み食いする宴会が、赤坂・新橋の高級料亭「ミカぶ」などで行なわれている」（95年9月議会・日本共産党・松尾好子議員の質問）—贈収賄になるこんな信じられない実態が長年続いていたのです。

上級役人の接待に約7000万円(94年度)

94年度の全会計における食糧費は、2億2471万円。このうち国・県の上級役人の接待に使った費用が854件、約7000万円。

当時の平岡市長は、「官官接待は、情報交換や良好な人間関係をつくるために必要」と公言していました。

現市政

4年前までは、聖域あつかい 交際費 軒なみ縮小

現市政では、市長交際費のなかの接遇費（いわゆる接待費）はゼロ（01年、02年）。個人として会うときも「割り勘」。市長部局（市全体）の交際費も軒なみ減少（裏面の表を参照）。

これらは、「清潔・公正・開かれた市政」へ大きな前進面です。

首長交際費の情報公開度も1位

さらに、01年5月から、交際相手方の個人名まで全面公開にふみきり、02年には全国市民オンブズマン連絡会議が調査した「首長交際費の情報公開度」で、政令市でトップになりました。

視察旅費・庁議（各部局の会議録等）あわせての市政全体を評価した「開示度ランキング」でも、広島市は政令市でトップ（02年）。

現市政は、情報公開で全国の流れを推し進めている立場です。

いっしょになくなりました

◆接待費、情報公開に関する資料を裏面に掲載

日本共産党市議団は

平岡市政時代に

「官官接待」の実態明らかにし、廃止を要求。情報公開をすすめる立場で追及しました。

日本共産党は、「官官接待」が全国的に問題になった1995年の9月議会で、「官官接待」の全容公開と廃止を厳しく要求。情報公開条例に基づいて食糧費の資料を請求し、その実態を解明。市の食糧費削減へ大きな役割を果たしました。

93年度に1人2万円以上の高級料亭での宴会が、秘書課、財政課、東京事務所の3課だけでも43回、のべ396人の規模で行なわれていたことが、この調査でわかりました。

昨年、新市長が誕生した熊本市では

前市長が結婚披露宴の祝儀や真珠・化粧品を購入、ひとり数万円も使ったの飲食接待に交際費を使い、マスコミが批判的に取り上げると開き直るという始末。

「公私混同」「乱脈」ぶりと、反省の姿勢が全くない前市長に対して市民の批判が集中し、口利き、なれあい政治の打破を訴えた新市長が現職を破って誕生しました。

交際費

2001年度 市長交際費の支出明細

	金額(円)
予算額	6,190,000
支出額	2,789,753
慶弔費	2,375,403
報償費	59,350
賛助費	10,000
接遇費(接待費)	0
会費	242,500
雑費	102,500

市長交際費は市長部局交際費(下表)に含まれます。

現市長の接遇費(接待費)執行状況

	件数	金額(円)
1999年度	1	34,937
2000年度	2	65,469
2001年度	0	0
2002年度	0	0

市長の接遇費(接待費)は市長交際費(左表)に含まれている費目です。

市長部局(市全体)交際費の執行状況 (1995年度～2001年度)

単位:千円

	平岡市政				現市政		
	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度
予算額	32,400	28,822	29,000	29,000	25,515	23,960	18,000
支出額	19,369	18,513	14,744	11,930	9,728	6,520	6,461
慶弔費	12,667	11,125	8,716	7,167	6,521	4,515	4,703
報償費	2,395	1,961	1,303	638	522	334	73
賛助費	186	186	197	172	172	172	110
接遇費(接待費)	1,767	3,359	2,661	1,537	560	65	0
会費	2,213	1,593	1,679	2,200	1,576	1,194	1,423
雑費	141	289	188	216	377	241	152

平岡市政(95年～98年)では、市の交際費予算は、市の財政状況によらず年約3千万円計上され、まさに聖域扱いされていましたが、現市政では年々予算縮小され、ついに2001年度には接遇費(接待費)の支出がゼロとなりました。

情報公開

政令指定都市開示度ランキング

(全国市民オンブズマン連絡会議2002年3月発表)

順位	自治体名	首長交際費に関する得点	議員視察旅費に関する得点	庁議に関する得点	得点合計
1	広島市	30	15	20	65
2	神戸市	20	15	15	50
3	札幌市	20	15	10	45
3	名古屋市	20	15	10	45
3	川崎市	15	20	10	45
3	仙台市	15	15	15	45
7	横浜市	10	15	10	35
8	京都市	5	15	10	30
8	福岡市	15	5	10	30
8	千葉市	5	15	10	30
11	大阪市	5	15	0	20
12	北九州市	0	0	10	10

開示度ランキングの採点基準

- ◎首長交際費
交際相手情報をどこまで公開しているか
- ◎議員視察旅費
視察情報をどこまで公開しているか
- ◎庁議
意思形成過程をどこまで公開しているか

首長のなかには、公費である交際費を個人のポケットマネーのように使う傾向も見受けられ、その使途は首長という地位に必然的に伴うものとどまらず、自分と個人的なつながりのある相手に支出されることも珍しくなく、事前選挙活動を日常的に公費でおこなうという重大な問題をはらんでいます。

そのなかにあって広島市は、交際費を年々縮小し、接遇費(接待費)も2001年度から支出ゼロ。昨年、全国市民オンブズマン連絡会議が発表した開示度ランキングでも政令市中、第一位に輝いています。

高い閲覧料も、96年から無料に。

日本共産党が調査を行なった95年当時は、情報公開の資料閲覧料が驚くほど高く、一般市民に知らせないための「非公開条例」でした。たとえば、前述の食糧費について、3課221枚の資料をとるだけで、閲覧料・コピー代が5万5340円かかりました。市全体の食糧費約2万件を調査すれば1000万円近くかかる計算。

日本共産党は同議会で、閲覧料を無料にするよう要求。市は、96年から無料にふみきりました。

ホームページに「市長選コーナー」を設けました。
労学協による皆川恵史議員の独占インタビュー「『住民が主人公』の市政をめざして」など掲載。